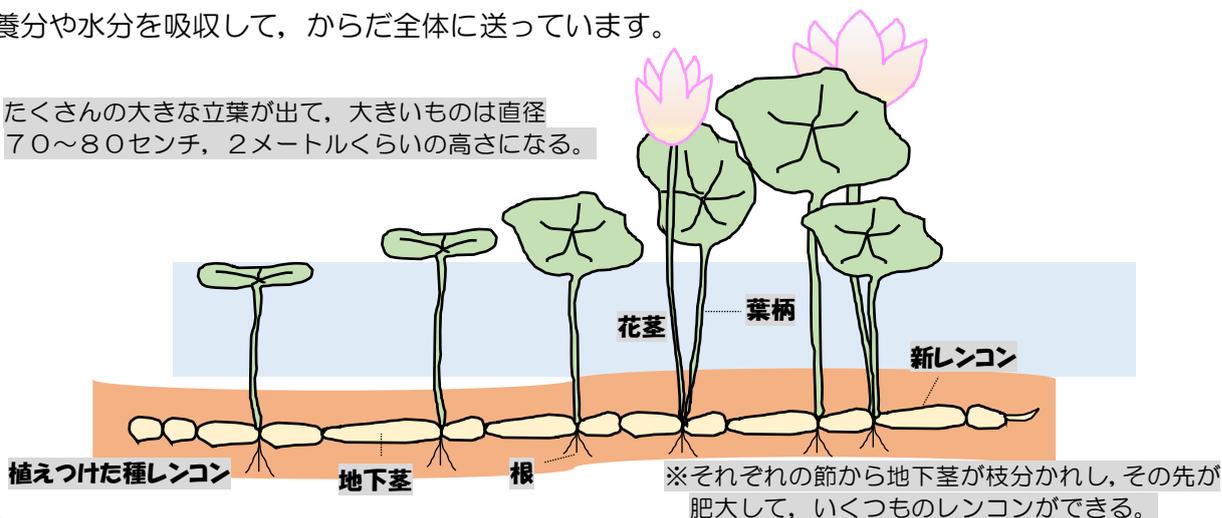


レンコンの穴は、^{あな}空気の通り道 ～白石町 福 富地区～

1 ハス（レンコン）は、こんな植物

レンコンは漢字で「^{れんこん}蓮根」と書きます。ただ、食べる部分はハスの「根」ではなく、「^{くま}茎」（^{こんせい}根茎と呼ばれる^{うかひ}地下茎）を食べています。水面から出ている葉を支えている「茎」のように見えるのは「茎」ではなく、「^{もろへ}葉柄」と呼ばれる部分です。「葉柄」は地下茎の節から出ていますが、この節からは「葉柄」だけでなく、たくさんのヒゲのようなものが生えています。これがハスの「根」で、ここから養分や水分を吸収して、からだ全体に送っています。

たくさんの大きな立葉が出て、大きいものは直径70～80センチ、2メートルくらいの高さになる。



2 理科学習の中で

- (1) 単元 第3学年「植物を育てよう」 第6学年「植物の養分と水の通り道」
- (2) 活用方法

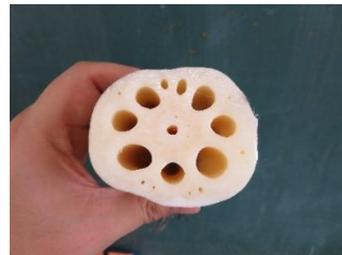
第3学年の「植物を育てよう」では植物の育ち方には一定の順序があり、その体は根、茎及び葉からできていることを学習します。学んだことを生かす時間では、植物の体のどの部分を食べているのかが取り上げられています。レンコンは根ではなく、茎を食べていることは児童にとって意外性があり、興味深い教材になると思います。また、第6学年の「植物の養分と水の通り道」では、ホウセンカなどを使って、根、茎、葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散していることを学習します。この学習の発展的コラムとして、特殊な例ではありますが、レンコンの穴を取り上げてはどうでしょうか。レンコンには、いくつもの穴があいていることには普段食べているので気付いています。しかし、調理したものしか見たことがない子もいるかもしれませんので、穴が続いていることには気付いていない子がいるかもしれません。レンコン（肥大した地下茎）にはいくつかの穴があいています。これは空気（ガス）の通路で、ハスの地下茎は地面の中にあるが、呼吸をしなくてははいけません。そこで、葉からとりこんだ空気をこの穴を通して全身に送っています。地下茎の穴の数は品種によって多少の違いはありますが、中心に1個、周りに9個の10個程あります。地下茎だけでなく、葉柄や花茎にも通気の穴があいていて、^{つうきこう}通気孔はすべてつながっています。



福富地区は夏、蓮の葉がたくさん見られます



葉と地下茎はつながっている



地下茎の断面。穴は10個